

令和6年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業受賞者の決定について

【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成21年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、令和6年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1 今年度の論文応募数

6名（学生の部3名、一般の部3名）

2 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会において、論文及び口頭発表の審査を行い、受賞者を決定。

3 受賞者及び受賞論文について（内容は別紙のとおり）

(1) 岩手県知事賞（2名）：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	さいとう あやか 齋藤 綾華 (27)	東京大学大学院 農学生命科学研究科	アカウミガメが深く潜水するときの心拍数の低下
一般の部	てらもと さやか 寺本 沙也加 (30)	岩手県水産技術センター	ヨーロッパヒラガキの三陸沿岸海域への移入と定着状況について

(2) 特別賞（1名）：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	ファン ズハン(ミヤ) (26)	東京大学 大気海洋研究所	大槌湾におけるエゾアワビによる高精度な海洋復元に関する研究

※ 令和6年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業 選考委員名簿

氏名	所属	職名	専門分野等
青山 潤 (委員長)	東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター	センター長	魚類生態学
天野 勝文	北里大学海洋生命科学部	学部長	水族生理学、内分泌学
平井 俊朗	岩手大学三陸水産研究センター	センター長	生殖生物学、内分泌学、生産増殖学、分子生物学
湯浅 啓	国立研究開発法人水産研究・教育機構宮古庁舎	特任部長	水産生物学
神 康俊	岩手県水産技術センター	所長	水産学、行政関係者
小笠原 徳	岩手県ふるさと振興部科学・情報政策室	室長	行政関係者

【参考】論文の概要について

1 岩手県知事賞（2名）

氏名	所属	論文タイトル
さいとう 齋藤 あやか 綾華 (27)	東京大学大学院 農学生命科学研究科	アカウミガメが深く潜水するときの心拍数の低下
<p>【論文要旨】</p> <p>海生爬虫類が深く潜るときに心拍数の変化を明らかにするため、潜水能力の高いアカウミガメが来遊する三陸沿岸域で、ウミガメが自由に潜水するときの心拍数と行動を計測した。その結果、潜水中の心拍数は海面で呼吸するときより低下し、深く潜るほどさらに低くなることが明らかになった。本研究は、このような心拍数の変化を海生爬虫類で初めて確認したものであり、肺呼吸動物が深く潜るための重要な生理的な仕組みを示唆している。</p>		
氏名	所属	論文タイトル
てらもと 寺本 さやか 沙也加 (30)	岩手県水産技術センター	ヨーロッパヒラガキの三陸沿岸海域への移入と定着状況について
<p>【論文要旨】</p> <p>岩手県山田湾から発見されたカキ類は、国内未定着と考えられていたヨーロッパヒラガキであることが分かった。本種は、1952年にオランダから日本へ人為的に移入され、その後、三陸沿岸海域を中心として29か所で試験養殖が行われた。現時点で、岩手県内7つの湾で生息が確認され、山田湾では定着していると判断された。これは水産増養殖目的で国外から意図的に移入されたカキ類が天然海域に定着した国内初事例に当たる。</p>		

2 特別賞（1名）

氏名	所属	論文タイトル
ファン ズハン (ミヤ) (26)	東京大学 大気海洋研究所	大槌湾におけるエゾアワビによる高精度な海洋復元に関する研究
<p>【論文要旨】</p> <p>大槌湾産エゾアワビの殻の複数の同位体 ($\Delta 14C$、$\delta 18O$、$\delta 13C$) 分析による海洋環境変動の復元を行った。アワビの殻の $\delta 18O$ は海水温変動を記録し、高精度年齢決定にも利用可能であることが確認された。大槌湾の海水とアワビ殻の $\Delta 14C$ の結果から、大槌湾の水塊は季節変動しており、2019年以降は気候変動と関連して湾内に流入する水塊が変化している可能性が示唆された。本研究の結果、アワビの殻は高緯度域の環境復元に有効であることが明らかとなった。</p>		